

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800100		
法人名	医療法人 荒瀬会		
事業所名	グループホーム 乙女		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町津志田1161		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なるべく外出の機会を作り外に出て季節感等を感じていただいたり心身の活性、また回想法へとつなげている。近隣の方との付き合いも積極的に出かけて行ったり、施設へと来ていただきコミュニケーションの場を設けたりしている。また、ご家族へは必ず月に1度、日々の様子を記録したものと行事時等の写真を同封し送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中に、地域名をホーム名として、開設前から職員の教育を徹底し、この2年入居者一人ひとりに向き合い、信頼関係構築に身体状況や特性の把握に努め、家族に毎日の一行コメントと写真を毎月送付し安心感につなげている。入居者一人ひとりの生活パターンの尊重は主体的な生活となり、掃除をしたり、食後の食器拭きも自然発生的に行う等穏やかな日常生活の中に、今ある力を最大限に引き出しながらの生活である。地域とのつながりの重視に、近くの小学校との相互交流や保育園児がかたたき訪問したり、地域の行事に積極的に参加し、小学校の田植えに参加する等地域の中での生活が拡充されている。管理者はリーダーシップを発揮し、職員同士の意思疎通も良く、業務見直しや記録の簡素化に取り組む等現状に満足することなくスキルアップに努め、「今の安心・安全な暮らしに入居者に感謝したい」との言葉に、この2年間の成果を見ることが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスについて職員間で話し合い作り上げた。みんなで家庭的な生活環境のもと、地域との結びつきを大切に、自立した生活が継続出来るサービスを理念としている。	開設時に職員で話し合い、利用者と共に目指すことを3項目として掲げている。家庭的な環境と地域とのつながり、自立した生活を規範として、入居者一人ひとりの生活パターンを大切にこれまでの生活の延長線として支援し、掃除や洗い物等自立した生活につなげ、地域の中での買い物では地域の人々と歓談する等全職員が理念の実践に真摯に取り組んでいる。	この2年間でホームとしての基盤が確立し、地域の中での生活拡充にまい進されている。今後、定期的に理念を振り返り、達成度を話し合うことや地域に向けた啓発に期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板をまわしてもらったり買物、ゴミ出しに出かけている。又、乙女小学校の生徒さんや保育園児「おしゃべりサロン」の方達など地域の方と積極的に支援を続けている。	民家が少ないという立地の中であるが、運営推進会議等を活用し、子ども会の餅つきに参加したり、小学校の田植えを一緒に行い、生徒や先生の訪問、保育園児が肩たたきに訪問したり、地域行事に積極的に参加している。毎日買い物にローテーションを組んで1名の入居者と職員が出かけ地域の人との接点を持ち、隣保組への加入や回覧板の受渡し等、地域の一員として交流促進に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミーティング、勉強会等において、スタッフ間で認知症について話し合いを行っている。又、施設への面会や見学时等にグループホームや認知症についての質問や疑問に対してきちんと説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議において「乙女」内の現状、問題点などを報告し、話し合いを行っている。	21年7月を第1回目として、2ヶ月毎に開催している運営推進会議は、事前に寺領を作成し、現状報告や行政から伝達、委員との意見交換が行われ、意見や要望に関して職員全員で話し合い、ホーム運営に反映させている。民生委員の出席が「おたっしゃクラブ」との交流、区長の子どもの会の行事等の情報を活用し、子どもたちとの交流促進につなげている。	メンバー構成は十分ではあるが、包括支援センターに参加を依頼することで高齢者問題等が更に得られものと思われる。更に目的をもった会議にしていける事や、出席されていない家族にも会議の状況や問題点などを報告されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の勉強会等に参加したり不明点が発生した時は町の福祉課を訪ねたり電話などで報告し情報の共有、質の向上に取り組んでいる。	行政の主催する虐待防止や個人情報関係の研修に参加したり、社協からの入居者相談やケアマネジャーとして不明な点を電話で相談する等協力関係を築き、管理者は社会福祉協議会の理事会に参加する等町全体の福祉に携わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはみんなで勉強会を行って理解できている。玄関などの鍵は常に開放しみんなで身体拘束ゼロを目指しています。	身体拘束廃止マニュアルのもと全職員で勉強会を行ったり、外部研修参加者により復講により、施錠も含めて拘束の内容や弊害を正しく認識している。言葉使いやベッド柵等事例を通じて日常的に指導し、職員は不穏等入居者個々の状況の観察、見守りの徹底、外出傾向を察知し一緒に散歩に出かけたり、後ろからも守る等自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で話し合いや研修などに参加し虐待防止についての知識を身につけ理解をみんながもてるように取り組んでいる。又、利用者の方の観察を職員全員で毎日行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深めるため研修会などに参加し学ぶ機会を多く取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営規定にそってケアやサービスについて分かりやすく説明し同意をもらっている。また、不安、疑問などがある場合については来居時や電話で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の方の言葉、表情からあるいは態度などで本人の訴えを理解している。また、管理者など利用者の方との対話なども実施し、意見の確認をしている。	管理者は入居者とのスキンシップにより信頼関係の構築に取り組み、職員も入居者とのコミュニケーションに心がけ、寄添いのケアや傾聴により、会話や表情等から推察している。家族には毎月「一日一行」コメントとともに行事写真等を添えて送付しており、日常生活がよく分かると好評を得ている。家族等の意見等は苦情相談簿に記載し検討することとしており、相談事は出ているが、意見や要望は出されていない。	意見箱の設置や外部の苦情相談窓口を明示し家族への説明が望まれる。また、家族同士が集まる行事等を企画することで家族間の交流促進とされることが期待される。また、交流の場で家族同士の話し合いの場を作り、忌憚の無い意見を引き出し、更なるサービス向上に反映されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望ある時はその都度、管理者へ報告を行い、話し合いを実施している。	毎月の勉強会の中で職員の増員による業務見直を全員で検討したり、スタッフノートと連絡ノートを使い分け、情報の共有化を図り、記録の簡素化に取り組んでいる。職員の意見や要望は随時管理者と話し合いを持っている。また、自己点検シートにより全職員が自己を振りかえり、ステップアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働きやすい職場になるよう個々の意見は理事長に報告し話し合いが重ねられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外の勉強会等に参加しているまた、個人的にヘルパー研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ブロックで連絡会あり、情報交換研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。又、各支部の連絡会を定期的に出席している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、スタッフの自己紹介を行います。本人や家族の話を十分に聞き、どんなことでもきちんと安心されるまでお答えして。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話に耳を傾け来居時や電話での相談に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を第一に希望されているのかを家族、本人、あるいは担当ケアマネと話し合いを行い、優先順位を決めケアを行っている。常にモニタリングを行いながら適切なケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話を多く取り入れ本人の思いを知り、共感できる関係を作りその人を中心としたケア、あるいは尊厳の保持に職員全体で取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者と生活をしている中から生きがいや思いを把握して家族へ細かく伝えることで協力関係を気づき家族間でのコミュニケーションをとりやすくしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物や地区の行事、外出などで知りあいや親せき友人への声かけ等で等々ホームへ来訪していただいている。	地域の中での買い物や初市・ひな祭り等地域行事への参加、友人の訪問、また、「家に帰りたい」との希望にドライブ時に自宅へ立ち寄り、家族の支援により馴染みの美容院を継続されている方、遠方から帰省される家族と温泉に出かけられる人等ホームでの生活の中に馴染みの人や場所との関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や食事づくりレクリエーション等には職員も中に入り会話を楽しくできるような雰囲気作りと気の合う仲間での対話を実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退去され他施設へ入所されてからも必要な情報を提供している。又、面会にもいつている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で言動しぐさなどから思いや意見等を察し、また、家族、関係者から情報を得ている。	アセスメントでの情報や日々のかかわりの中で入居者の思いや意向を引き出し、会話の中で個々の思いを推察したり、食べたい物等投げかけている。また、家族や入居者を取り巻く関係者かたの情報を活用している。	スタッフノートには入居者に対する職員の気づきや観察が詳細に記載されている。今後も心身の状況(私の姿と気持ちシート)に職員の観察力が活かされ、プランに反映されることが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や担当ケアマネ、家族知人などの話などで情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し日々の係わりの中で気づきを感じ取り把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の係わりの中で思いや意見等を聞きADLの向上とともに自分らしく生活が出来る様介護計画を作成している。	新たにセンター方式を移行しており、基本情報を見直し、個々の背景や日々職員の気づきや観察の結果や心身の状況変化に随時のカンファレンスや介護計画担当者は毎月モニタリングを行っている。個々のニーズに応じ詳細な援助内容を作成し、変更時にはプランを追記し現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方に変化等があった場合、介護計画の変更を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメントをきちんと行い必要とするニーズを探し個別的なケアを作成し支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らせるように地区の区長さん、町の福祉関係の方々との意見交換の場をもてるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人御家族の希望に応じ対応している。基本的には家族同行の受診であるが不可能な時には職員が付き添って同行している。協力病院がかかりつけ医となり、病状管理をお願いし、病院との関係を密にしている。	契約時に母体が協力病院であることを説明し、本人・家族の希望によるかかりつけ医としており、協力病院の他、もともとのかかりつけ医となっている。受診ノートやバイタルチェック、看護師により状況変化を見極め、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変化があった場合は職場内の看護職に相談。診察が必要な時は協力病院への受診をし指示をもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院への入院時には情報や気づきをまた、面会に行き声かけをし安心されるように努めている。施設での情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のありかたについては御家族の来居時、電話で話し合いを行ってきた。当施設で出来ること出来ない事を十分に説明し方針を共有してきた。地域の関係者とともに支援している。	ホームでできること・できないことを説明し、病院との連携や訪問看護等も検討されており、本人・家族の希望があれば最期まで支えていく意向である。	まだ開設2年であり、今後の体制を確立し、勉強会を行う意向である。ホームでできること・できない事を明文化し、重度化・終末期に対する職員のレベル強化やホームと家族と重ねて話し合い、関係者と共に方針を統一し、体制整備への取組みに期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の方に緊急事態が発生した場合にはすべて管理者、家族、町と話し合いをしている。又、常日頃より協力病院に連絡をするなどを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災無線による緊急連絡火災訓練時の初期消火、避難訓練、通報訓練などを行い災害時の対応に心がけている。	年2回消防計画書により消火・通報・避難訓練等を夜間のその時間帯に訓練を行っている。運営推進会議の中で災害時や緊急時対応を要請し、緊急連絡網に区長・民生委員・近隣住民も名を連ねている。又、ホーム周辺の整理整頓や夜間に火元点検を行うなど、まずは火を出さないように徹底し、スプリンクラーや緊急通報システムを整備している。	防災に対する危機意識は高く、今後も火災のみならず、自然災害に対する訓練を近隣住民とともにいたり、運営推進会議の中で意見交換を行い、防災体制の強化に期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の係わり方をミーティングで確認しあい利用者の方の誇りやプライバシーを損ねない対応ができていないか確認し尊厳の保持に努めている。	接遇研修を開催し、入居者の尊重とプライバシーの確保を重要視しており、日々職員同士確認しあったり、管理者はプライバシーに配慮した支援であるか注意・指導を行っている。職員の腰を折った会話や誘導時等に高齢者に対する姿勢が表出し、入居者が理解されるような話しかけに取り組んでいる。個人情報保護については契約書で説明し、職員にも守秘義務について誓約書を交わし、記録物は事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者に合わせた声かけを行い意思表示が困難な方には行動、表情の観察をしながら本人に合った自立支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床時間に起きていただき朝食を取られている。散歩、外出希望や、買物等には職員が付き添って出かけ本人の主張、希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容(髪の毛のブラッシング)等自立及び支援に行っている。又、衣類も自分の好みで着用していただいている。理美容などについては行きつけの店を利用していただきそれ以外の方は出張理容を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と食事の準備片付けを行い、食事の献立や食材の会話をしながら楽しみながら料理をし職員と一緒に楽しく食事をしている。	職員と入居者1名が毎日食材の買出しに出かけ、旬の食材を中心に一緒になって料理に取り組んでいる。座位でできること(ごぼうのさがき等)に精を出す人や畑の手入れからの野菜作りは収穫の喜びや季節感となり、食器拭き等自然発生的に参加されている。「一緒に作り、同じ量を、一緒に食べる」ことをコンセプトに、一緒に楽しみながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューをもとに料理を作り食べていただいている。毎食の摂取量を記録し嫌いな食材は形をかえ栄養のバランスを考えている。スタッフ間で情報の共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや寝る前のポリデント使用により義歯洗浄を週に1回行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自然な排便ができるように支援しているが便秘がちの人が多。又、排尿に関しては、尿意の低下が徐々にみられてきている。排尿パターンを把握し声かけをして自立への支援を行っている。	排泄チェック表により、個々のパターンを把握し、昼夜を問わず全員をトイレでの支援とし、時間やしぐさにより誘導している。尿量による下着の使い分け等一人ひとりの状態を見極め、自立や自信回復へつながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で、体操、買物、散歩と身体を動かし水分補給に努め食材にも心がけ、排便コントロールを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認して入っただけしている。又、順番なども考慮している。	最低週2回以上を目安に支援しているが、冬場は脱衣場を暖め、足湯を採り入れたり、夏場の発汗状態や汚染時等シャワーによる清潔保持に努めている。入浴拒否者にも職員は声かけを工夫し、日常の入浴剤や菖蒲湯・ゆず湯等により寛ぎや楽しみとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体調、表情を観察し無理なく活動を促し生活のリズムを整え、夜間はゆっくり休んでいただけるよう努めている。寝付けないときは声かけをし一緒に会話をしたり軽くお茶お菓子をとりながら話し自然に寝入り出来るような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等の情報ファイルを使用職員全員が目的、用法、用量、副作用などを確認できるようにしている。薬は全部施設で管理し服用時は手渡し服薬確認をしている。何か症状に変化がみられたら詳しく記録し必要に応じてかかり付け医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き洗濯物たたみ等、一人一人に合った役割をみつけ力が発揮できる環境作りをしている。また、外出や地域の行事の参加など心身の活性の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って屋外に出たり利用者様の自宅周辺などドライブにいたりしている。一人ひとりすべての方の希望に添っての連れ出しは難しいところである。	近くの小学校までの散歩を目標にしているが、冬場の外出や個別外出は少なかったことである。しかし、毎日の食材の買出しに輪番で入居者と出かけたり、自宅周辺のドライブや季節毎に動植物園や桜見学、紅葉狩りに出かけ、入居者の楽しみに繋げている。訪問時はホーム前で日向ぼっこを楽しんでいた。気候が良くなれば、苑外での食事会も行う意向でもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方には金銭管理ができれば方もおられるため財布を持たれ2千円～3千円程度を自己管理されている。その他の方は事務の方で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話要求に対しては家族の支障ない時間に電話するようにしている。手紙については御家族様からも送られてきておりとても喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と共に季節感のある飾りを多く取り入れ間接照明(天窓)等でゆっくりくつろげる空間づくりを心がけている。	広い敷地の菜園には季節の野菜や花が植えられ、玄関前の車止めも広々としており、雨にも濡れることなく出入りができる。室内はバリアフリーが行き届き、天窓による間接照明等採光に配慮した共有空間は清潔感が漂っている。壁面を利用した掲示物は来訪者にも楽しみを与え、畳のコーナーでは洗濯物たたみの場や入居者の集いの場として活かされ、テレビ等のレイアウト変更等環境を変える事で活性化を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い南西にある畳に座られたり長椅子に割られたり長テーブルを囲まれたりと好きな方と好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのタンスや洋服掛けを好きな所に配置し住み心地のよい部屋飾りに努めている。	花の名前が付いた居室には洗面台やクロゼットを備え付け、家族に使い慣れた物の必要性を説明しており、筆筒や写真等が持ち込まれている。家族も泊まれるように広い居室では洋服掛けを個々が使いやすい場所にレイアウトし、自分の居場所として掃除に精を出される姿等もあり、安心して居心地良く過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住居環境が適しているか危険と思われるような箇所がないかミーティングなどで話し合い現状に応じ提案したり勉強会などにも出席している。		